

紀泰山銘

<紀泰山銘>中国 山東省泰安市 泰山に在る

きたいざんめいのひ
原拓「紀泰山銘之碑」



「紀泰山銘」の写真 (保存の為金箔)

成田山書道美術館の拓本

この碑は726年(唐の時代)に唐の玄宗皇帝が封禪の儀式を行った時に彫られたもので、
縦13.2m、横5.3mの壁面に約1,000文字が刻まれています。

右は成田山書道美術館の「紀泰山銘」の拓本(原拓)。現在泰山にあるオリジナルの「紀泰山銘」は碑文を保護するため金箔が貼り付けてあり拓本はできない。(左側)よって書道美術館にある「原拓 紀泰山銘」はかなり貴重なものである。成田山書道美術館のものは拓本とはいえ大きさはオリジナルと同じです。書道美術館正面入り口に聳える高さ13.3メートル、幅5.3メートルの碑は相当な迫力があり、その大きさに圧倒される。碑文は、唐の玄宗皇帝が封禪の時に自ら書いたとされる(伝説?)。漢字は今日日本でも使われているものも多いが、内容はわからない。

封禪(ほうぜん)とは、

司馬遷の「史記」で、泰山の頂に土を築いて壇を作り、天を祭り、天の功に報いるのが封で、その泰山の下にある小山の地を平らにして、地の功に報いるのが禪

原拓 紀泰山銘

銘碑は中国山東省中央部の泰山(海拔1545 中国でも名高い山の一つで雄大かつ大変に美しい山)岸壁を削って碑にしたもので高さ13.3m、幅5.3m、碑文996字、額銘4字を加えると1000字にもなります。唐の開元14年(726年)玄宗皇帝である李隆基が聖なる山泰山で祭政の方針を述べた時に書いたもので、字体は俊逸雄渾です。

展覧会等が開催されている時期は、無料で入館できる時もあります。